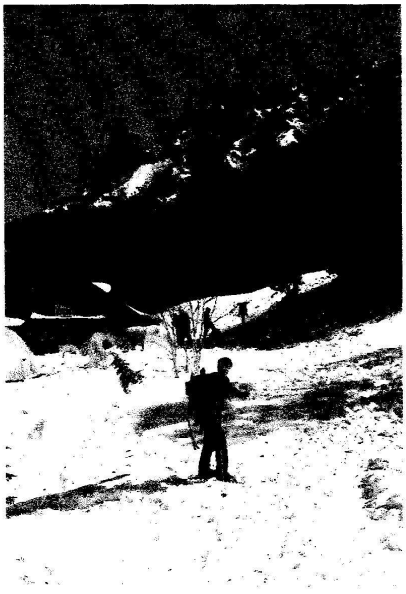
個人山行報告書

通算山行NO	NO. 1505	報告者	後藤隆徳
年 月 日	2009年02月15日（日・快晴）	2万5千	八ヶ岳東部
山 名	八ヶ岳・赤岳（2899m）		
体力度＝4・やや厳しい　技術度＝4・やや難しい　道標＝ある　駐車場＝美濃戸山荘　トイレ＝美濃戸山荘　展望度＝素晴らしい　三角点等級＝一等　点名＝赤岳			

62歳1週間前、2月の赤岳を日帰り

コースとタイム	下土狩5：00ー須山—甲府南IC—小淵沢—美濃戸山荘発7：30ー行者小屋9：30ー赤岳11：30ー行者小屋12：30～13：15ー美濃戸山荘14：45ー下土狩18：30
標高差	上り＝美濃戸山荘約1690mー赤岳2899m＝約1200m 下り＝　〃
参加者	L後藤隆徳（61）、山本佳樹（41）



行者小屋

週末は山本さんと、八方尾根・栂池で山スキーの予定だった。ところが、金曜日爆発的な低気圧が通過し、八方のリフトは運休。

さすがに、あそこのゲレンデをシールで上る元気はない。

やむなく、冬山登山も志向する山本さんと「赤岳日帰り」とした。

低気圧の置き土産で、春並みの高温でポカポカ陽気。こんな2月の山なんてあり～？？

車で標高約1700mの美濃戸山荘まで入る。ここが入れないと日帰りはかなり厳しい。まさに、林道・車道の恩恵である。

山荘のオバサンに駐車料金千円を払い出発。オバサンの話では、今日はかなり「暖かい」とう。ここで、下土狩の焼き鳥屋「三楽」店主に会った。

南沢を行く。しっかり踏まれている。2時間で行者小屋。雪が少なく小屋がすっかり出ている。テントが多かった。見れば若い人が右往左往。何か合宿か講習会の様子。若い声の山響声（こだま）が嬉しい。ここから本格的な登山道で文三郎道を上る。

阿弥陀岳分岐から赤岳に向かう。ここで、我が登山人生44年にして「晴天の霹靂（へきれき）」に遭遇する。何と赤岳から下って来た登山者の足にあったのは、「普通の長靴」だった。一応、確認で「スパイク」かと聞いたら、違うとの返事。

しかし、アイゼンでもなかなか手強いこの氷道を「普通の長靴」で、上り下りが可能なのだろうか？？

同行者はニヤニヤしながら「いつもこうです」と証言。いやはや、冬山赤岳も舐められたものだ。「良いものを見た」と言うより、「悪いものを見てしまった」の印象が強かった。

ここから、雪は少ないがやや固めの雪の嫌らしいトラバースが続く。滑落すれば重大な結果になる。慎重に上れば、頂上は程近い。

普通の長靴登山者

山本さんも久しぶりの雪山とのことだが、順調につづく。一応、ハーネス・ザイルは用意したが、必要なさそうだ。少し前、ザイルで結んだガイド登山者パーティー5名が通過した。

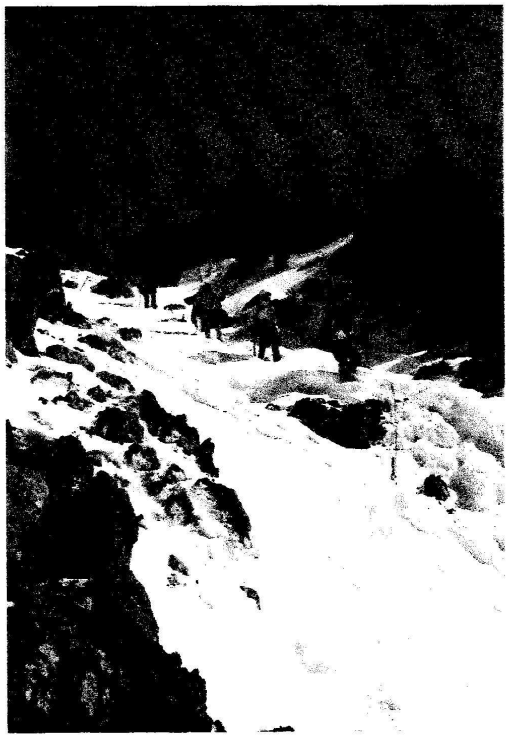
最後のリーダーらしき男が若い男客に登山の薀蓄（うんちく）を並べていた。どうも、上りの我々にルートを譲った客にお説教している様だった。勿論、我々への嫌味もある。

暖かい風・快晴の頂上着。山本さんは暑いので目出帽も被っていない。少し下で休憩し食べる。下りは上り以上に慎重に行く。

1時間で行者小屋。大休止。今日はビアもなし。美濃戸山荘に向かう下部は、ノーアイゼンで、山よりここの氷道のが、嫌らしく難しかった。

上・文三郎下り

左・頂上直下



左・頂上直下の下るガイドパーティー

右・行者小屋

山本さんの一言

今回の山行は春のような天候のもと天気には恵まれた。ここ最近スキー山行ばかりだったので、下りでスキーを使えないのはさみしいし、きつい。

ただピッケル、アイゼンの練習にはなった。頂上直下の下りはじめ、雪に埋まった梯子の所。足場はしっかりしたものがあるようで、外傾していたり、狭く小さく信用がおけず、足場が定まらず苦労。岩登り、冬山を離れて6年もあり、旨く体を離せず、従って足場を確認しにくい。

さらにいやらしいトラバース箇所が一つあって、ここで落ちたら滑落必発という急斜面。 固いステップは切ってあったが、10 センチ程度で、９３ｋｇの僕としては、足の置き方にも苦労したが、これが崩れたらやばいという恐怖を味わった。

反省として、ピッケル、アイゼンワーク、さらに、クライムダウンやトラバースでの身のこなし方と、足の置き方。

９３ｋｇの僕としては、ステップが崩れた時のことを考え、短いピッケルをもう１本もち常に三点支持で行きたいと思った。